

幼稚園教育課程の運営の研究 ①

《教育計画とその実践》

はじめに

幼稚園で毎日どのような活動を計画し、実践していくかということとを考えると、私どもはいろいろの要素を考えていかなければならないことに気がつきます。いま、直接に対象となっている子どもたちが、どのような能力をもっているか、どのようなことに関心をもっているか、親はどのような考えをもっているか、子どもをとりまく周囲の関心がどこにあるかなど、その時その時にあって判断しながら計画し、その計画をすすめていかなければなりません。ここに現場のむつかしさもあり、また現場の教育をすすめていく上の面白さもあるでしょう。

この研究では、実際に毎日指導した結果を、記録にのこしていくことよって、次の教育の計画を立てるのに参考資料とすることができるだろう、という考えのもとにすすめられたものです。ことに同じようなことを計画する場合には、前にやった成功や失敗の実例を参考にするこによつて、一層よい計画を立てることができるで

しょう。

この研究は、東京都研究協力学校として、昭和三〇年度より二年間にわたつて東京都新宿区立四ツ谷幼稚園においておこなわれたものです。

津 守 真
佐 久 間 重 代
相 馬 誠 子
岡 部 静 江
菊 地 喜 久 子

I 基本的問題点およびその検討

1 カリキュラムの考え方について

「カリキュラムとは幼稚園や学校における個々の子どもの実
際経験の総体」であり、したがって、各月毎に一定の項目に
よつて子どもにさせるべき活動を配当したような表をいうの
ではありません。また、よくカリキュラムの成果が表の形で
示され、その形式そのものが、カリキュラムであると誤解し
ているように見られることもありすが、一度こしらえてお
けば、あとは毎年それによつてやればよい、というような固

定し、わくづけられたものが、カリキュラムでないということ。これは皆の一致した意見でした。

もちろん年間の教材を配列したものは、参考資料として役に立ちます。このような意味で従来のカリキュラムを整理してみると、

第一には、一年間を通じてよりこまれるべき活動や経験を配列したものがあります。

第二には、一年間を通じての教材や資料を配列したものがあります。

この二種類のカリキュラムは従来きわめて多くのものが作成され発表されています。これらの資料が一般に参考とされる価値をもつためには、長くこの分野の経験をして豊富な見識をもった人々が、子どもの発達の状況や社会の要求などいろいろの面を考慮して、検討をしたものでなければなりません。

このようにして検討されたものは、個々の教師が教育をすすめるに当って参考資料として大いに役立つでしょう。

(例 昭和二七年度東京都幼稚園教育課程試験案、保育ノート、学芸大学附属幼稚園教育課程試験案、保育ノート)としたことは、上の種類のものをもうひとつ加えようとすることではありません。

私もが試みたことは、毎日の保育を最善に運営しているときに、その記録を積んでいけば実際に実践されたカリキュラムが、そこに残されるはずだという考え方に立ち、力動的にカリキュラムを改善してゆく工夫をしようというところ

にありました。

2 毎日の活動や経験を選ぶには何を基準にしたらよいか。

以上の考え方からそれでは毎日子どもたちに経験を与えていくには何を基準にしたらよいか。ということが先ず問題になります。いうまでもなく、保育の目標を達成するために、毎日の保育の営みがあります。どのような道を経て目標に達するかは、組により、場合によって、いろいろでしょう。

それはあらかじめ決められたわくがあつて、それを基準にするというようなことによつてきめられるのではなく、むしろ、毎日子どもが生活しながらぶつかる問題や、熱心に追求している活動自体に手がかりを求められるべきでないでしょうか。そして、子どもの毎日の状態を注意深く観察してみることにしましょう。

3 実際の記録に当つての問題

① 子どもの活動や経験の中に現われる興味や問題点の記録について

毎日の遊びの場で子どもたちの興味を中心になっているものについて実態を記録していきました。しかし、ひとりの教師が、四十数名を受けもち、余剰の無い上からも、また、遊びのグループが幾つも分かれ、しかも常に変化していくという点からも大変であるし、そのグループを作る子どもによつても興味と活動は異つてくるので、果して正しい記録がとれるか、はなはだ疑問でした。

しかし、これをしたことによって、子どもたちの個々の要求や興味を始めとし、細かなところまで教師が観察し、反省する「目」を得たということは、研究の土台になったばかりでなく、日常の保育を進めていく上からも大きな進歩でした。ただ現状にあって、保育中に記録して歩くことは長期間は許せないことであるし、実際に容易なことでもなく、また、記録の取り方によっては弊害を伴うこともあります。

② 記録の方法についての問題点

さて、このように子どもの興味あるいは、教材・目標の持ち方などを反省し、観察したことを記録に残していったわけですが、実際に書く、ということになると、どう「まとめ」て書きあらわしたらよいかという問題が起って来ました。

子どもの目につけるもの、経験させたいこと、したいこと、すべて皆貴重で、あれもこれも、と書きとめておきたいことばかりであるし、どれも皆、カリキュラム運営上の大切な資料になるように思えて、これをどう要領よく書きあらわし、残していったらよいかにきわめて苦労しました。そしてその形式や記録の仕方についていろいろ検討したのです。最初のうちはあまり細かすぎてかえって要を得なかったり、読みにくかったりして、見やすく、書きやすく、実際に役立つという点から考えると不十分でした。何回も改訂の結果現在は第2表の要領で記録していくことになりました。しかしながら実際の保育をおこなっていく上からまた考慮されるべき点も残っている。

4 単元と経験

こうした実践記録によって、子どもたちの共通な興味と問題点、能力の程度が分ってきたのですが、次に子どもたちの生活の中に目標をもち共通な題材のもとにできるだけ多くの望ましい活動が総合できるようなまとまりを与えることが必要です。このまとまりは普通主題とか単元とかいわれていますが、経験のまとめ、という意味からここでは「経験」とした。

従来主題あるいは単元としてとり上げられているものは、きわめていろいろです。「秋のみのり」というような抽象的なものから「お店やさんごっこ」という具体的なものなどいろいろみられますが、私どもはなるべく具体的で、しかも「多くの経験を含んだまとまりのあるもの」がほしいと思います。「のりものごっこ」「お店ごっこ」などというはつきりした具体的なものを取りあげ、これを「経験」と呼ぶことにしました。

しかし、こうした考えはあってもなかなか適当と思われるものが考えつかないで、もっとその時々々に適当なものがないか研究中です。

この期間はその経験によって一週間あるいは二週間あるいはそれ以上と、いろいろであり、それぞれ子どもの活動の状態によっても変って来ます。実態にそくし、常に弾力性をもたせなければなりません。

5 評価の観点

① 一つの経験をした後にはその経験のねらいとした目標を達成することができたかどうか、子どもの実際活動の様子を記録に残しながら反省します。

② とりあげた経験がこの時期で果して適切であったか、組の状態、子どもたちの興味の対象と発達過程、教師の指導の方法などを評価し記録していきます。

たえずこのような評価をすることによって運営の技術も高まって来たように思います。

6 目標と経験の検討について

こうして、年度末を迎えて、一番問題であり疑問にも思っていたわれわれの目標と経験が、果して、妥当であったかどうか、検討をしてみました。

① 子どもの興味と活動にそった経験を選んで来たつもりでありながら、もっと適切な経験があるのではないか。また、

a. 従来のもっとした教師の経験

b. 毎月の子どもの生活における教師の経験や観察

c. 今までに発表されているカリキュラムの表（主に東京都のカリキュラム）

の三つの観点から、計画を立てることにしながら、実際にはc.の検討が極めて薄く、子どもの時々々の状態から目標を立ててきた面が強いので片よったものではなかったか、を考えて、信頼のおける幾つかのカリキュラムから目標と単元の部分を抜き出して比較検討をしてみました。（第1表参照）

② またこうして記録していった目標が実際に当ってその時期

に適當であったか、子どもの能力にとって高過ぎはしなかったか、あるいは目標を達成することができたか、などを考慮して、みんなが集まっているいろいろと目標の適否を検討してみました。（第2表参照）

7 記録の形式について

このように日々記録し、あるいはまとめた記録を残していくということとはたびたび述べたように保育を進める上に役立つながらも、掃除、事務一切をしなければならぬ教師の立場にあたって、本当に容易なことではありません。そこで何とか簡単で、しかも当を得た記録の取り方はないものか、または、書きやすい形式はないものか、としばしば話しあい、検討をつづけました。第3表が最後の形式です。（岡部静江記）

II 実際上の問題

● 予想される活動について

一口に「予想される活動」といっても、それは、長期間（一つの経験主題が終るまで）にわたる大まかな予想と、毎日毎日のやや細かい予想とに分けられると思います。

1 長期間の予想のたて方

これは一つの経験（主題）が終るまでの期間を意味し、例「お店ごっこ」をあげれば、その導入から中心的活動、さら

に次の経験主題に入るまでの子どもたちの活動について大まかな予想見通しを立てることをいいます。

「お店ごっこ」の予想される活動例

導入期

- お店の品物から話し合いを始める。
- お店ごっこの歌や、リズム遊びをする。
- お店を見に行って好きなお店を絵に描く。

中心活動の期間

- 友だちの作ったものを見合う。
- 作ったものの売り買い遊びをする。
- 売り買い遊びから、いろいろなあそびを工夫する。
- お店ごっこの品物として、紙芝居やお面を作る。
- 紙芝居ごっこ、劇ごっこをする。

次への導入期

以上のような、三つの期間に大きくわけて、一応の予想をたてます。またその場合は、一つの経験(主題)による活動が終ると次の予想をたてるようにし、細かいことはできるだけきき、大きな動きがわかるようにのみたててきました。机上でたてる予想は、あくまでも予想であるので、広く巾をもたせ、融通性をもたせるように、そして、できるだけ実際にいかされるようにと考えたので、細かい予想はできるだけききました。

2

毎日の予想のたてかた

いわゆる日案においては、さらに具体的な細かい予想をたてることが可能でしたので、昨日までの子どもたちの活動状態や、評価反省から明日の予想をたてるようにしました。

「お店の品物をつくる」という大まかな予想から、さらに「草履をつくる」とか「モール、ビニールなどで好きな品物をつくる」とか、その時々目標によってもちがいますが、できるだけ具体的な細かい予想をたてました。予想される活動として、最も具体的に決めるのは、明日の予想で、これらこそ、最も、実際の、カリキュラムの運営にも直接に役立ったと考えられます。

しかし、明日の予想できえ、創造的活動においては、予想できない面が多く、その時にならなければどんな活動が現われるかわからないのです。そこである期間の予想など、たてる必要もないのではないかという気持もありましたが、やはり細かいことにのみ心をくばっていると全体の流れからはなれやすくなるきらいがあるので、この全体の見通しと明日の具体的な予想は、ともに平行して考えられなければならないということにおちつきました。しかしながら、幼児の場合、どの程度の予想が可能で、実際的であるかについては、まだまだ議論の余地がのこされています。

3

教師の教育的意図

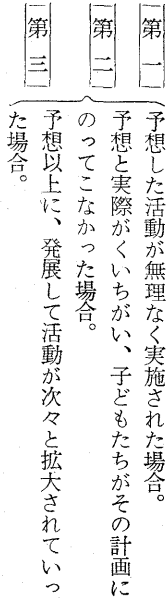
たとえ、計画はおおざっぱでも、はっきりした教育的意図をもって、子どもたちの活動を予想し、それを実際にこなしていくならば、たとえ予想外の活動が現われても、動ずることなく、着々と目標も達成されるでしょう。

要は、教師の教育的意図のいかんによるものですから、その導き方によってはある程度、予想どおり生き生きと活動させることも可能です。これには保育技術の問題も加わるので、指導法についてのたゆまない研究が必要になってきます。

●予想と実際について

一つの目標を達成させるために、いくつかの活動を予想し、初めて実際指導にあたるのですが、予想した活動は、つねに、幼児の生活に無理なく生き生きと展開されるように、導びかれなければならないでしょう。しかし、実際に行なってみると、時間的なくいちはいや、興味内容のくいちがいがいもしばばみられて、予想と実際についての研究の余地は数多く残されています。まず計画したことを、実際にどのように生かしていくかということが重要な問題となります。この点について、子どものささやかな研究からかち得た、種々の問題点やそれらに対する考えをまとめてみましょう。私どもが、毎日の計画を立てて、実際保育をおこなってくるうちに、次のような三つの実体が見出されました。

1 予想と実際の実体はどうであったか



以上の三つの実態から、それならば予想通りうまくいったか、なぜいかなかったか、という原因について、そのつど残してきた実践記録によっても反省し、追求してみました。

では次に予想と実際のくいちがいを生じたという第二、第三の場合の例をあげて考えてみたいと思います。

2

予想と実際のくいちがいをみた具体例

(A)子どもたちが予想通り活動しなかった場合。

①原因と思われる点

地域の事情や特殊事情に影響されて

②その実際(おまつり)

昭和三十年の六月にとりあげた「おまつり」の経験が、非常によく発展し、社会性、創造性を養うためにも役立ったので、三十一年も同じ時期にとりあげたところ、地域のおまつりが去年程盛んでなかったことや、ちょうど、他園の研究会とぶつかったために、教師もおちついて指導することができなかったという特殊事情もあり、三十一年度はどの組も発展しませんでした。

③指導

計画であるからといって、形式的におこなうことをきけ、こうした実態を知り、原因がわかったならば、現実の幼児が何に共通の興味をもっているかを見きわめて、次の計画へ進めるようにしました。

ちょうど小さい生物を飼っていたことから、それらに対する興味関心も高まりつつあったので、「小さい生物」のあそびにきりかえたのです。

興味本位にするというのではありませんが、興味のないところには、学習もなく、したがって目標を達成させることもできないので、実態にそくして変更しました。目標を達成させるためならば、その実際は「おまつり」のあそびであっても「小ざ

い生物」のあそびであつても、どちらでもよいと考えるからです。

(B) 予想以上に活動が発展し、次々と拡大されていった場合。

①原因と思われる点

○幼時の派生的な興味による動的な活動

○未分化な総合的な生活

○自主創造性を強調する教育の傾向

②その実際(A)

「お店ごっこ」のあそびで首飾りを作らせようと計画し、モール、ビニール、おはじぎ、飴の紙、銀紙などの材料をそろえた時のことです。



三人で協力して始められたおせんべやきです。やけたやけたと真剣な顔、女の子が買って来ました。

要を感じて犬の首輪づくりがおこなわれ、犬のさんばごっこにも発展し、男女仲よくあそぶひとときも、持たれました。このように材料をみて作り出したものからあそびが展開

思い思いの首飾りが作られると、もう売り買いをして首にか

けたり、ままごとあそびのおく

り物にして遊んでいました。し

かしそれだけではありません。

眼鏡を作つてそれをかけてはお

店の主人になつたり腕時計、耳

輪などを作つてかけ、ままごと

のお姉さん、お兄さんになるな

ど思わぬあそびが展開してきま

した。またその時偶発的にあそ

び出した犬ごっこから首輪の必



犬ごっこから首輪がつくれ、犬のお散歩です。Y子さんは草履をはいてうれしそう。

したり、あそびから製作活動が現れるなどの子想外の活動が次々と生れてくることはしばしばでした

②その実際(B)同じく

「お店ごっこ」をさ

せている時のある

日、スキ一の経験をしてきた、リーダー的男児Tが、二、三人を誘つて積木でスキーバスをつくり出したことから、スキーごっこ、木工のスキーづくり、やどやごっここととの関連あそびなどに発展していった日のことでした。

③指導

△その実際(A)

この時の目標を考えてみると、

○お店の品物を工夫して作るように。

○作つたものを遊びに活用し、仲よく友たちあそびができるよ

うに。

○同時に売り買いあそびも仲よくおこなわれるように。

ということでしたので、幼児の創造的活動をとりあげながら、売

り買いあそびに関連づけたり、さらに他のあそびに発展するよう

に仕向けて、その目標達成をはかりました。

△その実際(B)

この時期は十二月で季節的にもこうしたあそびをあこがれる時期ですし、お店ごっこのように製作活動の多い経験をさせている

時には活動的なあそびを適宜におりこんでいく必要もありますので、この派生的な興味によるスキーごっこを、丁度良い活動とみることができるだけ多勢が参加するような誘導をこころみました。「スキーを作るから板をちょうだい」といって来た子どもにはすぐに適当な板片をあたえたので一時は木工あそびが展開しました。ひもではばり、竹棒を両手にもって、板の所をすべろうという考えなのです。そのつど必要な材料は、あたえるようにしました。女兒のやどやではおべんとうやくすりを子どもたちと一緒に工夫していました。しかしこのように予想外の活動がどんどん発展していった時、さてどこでやめさせるべきか、どこまで発展させるべきかが疑問でしたが、できるだけ自然の形でお店ごっこに結びつけることができたらと考え、遊んだあとは、スキーをお店に並べることにし次の機会からは、うりかいを通してあそぶようにさせました。

3 指導に弾力性をもたせる

創造性を養う教育においては、モール一本からも木片からも、種工夫され、あそびが發展します。そのたびに教えられることは、いかに大人が観念的で創造性にかけているかということであり、時には幼児の中にこそ、すばらしい計画がひそんでいるということなのです。したがって、何を作りどんな遊びをさせるかということを細かく規定し予想することもできないし、さらにそれ以上の発見的な活動に対してはその折にふれて、適切な指導が考えられなければならなかったのです。

子どもたちの創意をいかしながらしかも目標達成の方向へと努

してはきましたが、子どもたちが総合的な生活をしているのと、派生的な興味による活動をおこしやすいくことから、この指導のむずかしさを今さらのように痛感したことでした。これらを考え合せても、ひとつの計画だけを予想して押しつけたり、またその計画が果されれば、それ以内の活動には指導もいらないと考えることはできないと思います。そこで計画と指導に弾力性をもたせる必要が生じます。

以上にのべた具体例から、もういちど、なぜ弾力性が必要かという点をまとめてみると、大体次のような点があげられるのではないのでしょうか。

4 なぜ弾力性のある指導が必要か

① 幼児は常に周囲の環境の変化や、特殊事情に左右されやすいので派生的な興味による活動が多いが、場合によってはこの興味を利用して適切な指導をすることにより保育の効果をあげることもできると思います。

② 幼児は未分化であり総合的な動的な生活をいとなんでいるので、その活動も社会、音楽リズム、絵画製作、観察、言語と發展していく傾向が強い。そこで総合的な動的な、指導が必要となる。

③ 保育全般にわたって、自主創造的活動を強調していると、この面の活動が盛んになり、予想外に發展していくことも多いが、しかし、いつどこでそれらの芽を表わすかを予想することはできないので、計画と実際とをみつめながら適当なバランスを保つていくような指導が考えられなければならないでしょう。

一つの指導の型にはめることは、形式的にも流れやすく、新鮮な興味もわかないし、もちろん自主、創造性はやしなわれな
いと思います。

それでは、どの程度の弾力性が必要かということになると、これは教師一人一人の指導技術にも関係してくるので、まずまずむずかしいくなりますが、ただ、こんな点に留意していったらよいのではないかと、いさぐさ然としたことは、私どもの経験の範囲でいえるかもしれないので、次に、それらについての考えをしるして多くのご批判を仰ぎたいと思います。

5 指導に弾力性をもたせるための留意点は何か

①常に目標をもった指導でありたい。

予想外の活動が現われた場合も何を目標として展開させていくかを考え、はっきりとした基盤にたつて、指導するならばその活動は価値づけられるでしょう。したがって、一時的な興味に流され、目標も忘れるようなことにはならないと思います。

②目標にも巾をもたせ、あせらないでその指導にあたりたい。

目標を持った指導を強調してきましたが、ここでは、目標のもちかたについて考えてみましょう。興味のおこらない活動や瞬間的に現われる一つ一つの活動まで、目標にしばりつける必要があるでしょうか。

毎日毎日くりかえし指導しているうちに、目標が達成されていくと考えるならば、かえって実態にそくしていると思うのです。実際におこなってみて、この目標はまだ達成されないと見た場合は、さらにその期間をのばすことも望ましい方法ではな

いでしょうか。またその時の目標にははずれていたとしても、他の目標による望ましい活動であったならば、目標も動的に考えていいのではないのでしょうか。

③共通の興味や欲求をとりあげるようにする。

目標を達成させるためにも、幼児の興味や欲求が大切な基盤となります。つねに問題になったことはその興味のとりあげかたでありました。個々ばらばらの興味を取り上げていくのでは、興味中心にもなりやすいし、それかといって、計画の押しつけになっていけないうところにむずかしさがあるのです。そこで、導入・誘導に重点をおき、ある程度、共通の興味となるように、導びき、それをとりあげるようにしました。そして、共通の興味がおこらない場合は、その計画や、導入方法を反省し、適宜にきりかえてきました。

④総合的な活動をさせながらも、自然の形で、経験活動(主題による活動)に結びついていくようにしたい。幼児は未分化であり、総合的な生活をしているので、またその指導も総合的になされなければなりません。が、「生活のまとまり」ということを考えた時にできる範囲において、その時々を経験(主題)につながるようにもっていくべきではないかということも考えられました。すなわち中心的な活動が浮び上るような指導が必要でしょう。

⑤幼児の自主、創造性を適切にいかす指導でありたい。

幼児自ら生み出すように、またそれがさらによりよくのびていくように全生活を通して指導されている今日において幼児が生み出す新しい活動が日々の生活に現われてくるのは当然です。

したがって、それらを生かした動的な指導が工夫されなければならないと思います。

6 残された問題点とその解決

以上予想と実際の実体から、弾力性ある指導の必要性およびその指導上の留意点についてのべてきましたが、まだはっきりした予想と実際のあり方というものがつかめない状態です。

予想と実際の、うまくいかないのにはその計画と指導に必ず原因があるから、それを追求し、解決していくよう努力することが何より大切であることはわかっていますが、未熟な私どもの間ではなかなかむずかしい問題でした。

現在一般の傾向として、

「教育だから必ず指導があり、興味中心ではいけない」といわれる向きもあり、興味のないことを何とかして、ひっぱっていかうと不自然な誘導をするきらいもあります。

幼い時代であり、しかも総合的な活動をしていることを考え合せると、どこまでどう計画の中に入れていくかが大きな疑問であり、また予想外に次々と発展していった場合も、どこまで発展させ、どこでやめさせるかについては具体的な指針もないので、私どものつねに思索するところです。いずれにしても実際指導にあつては教師の高度な指導技術が要求されるわけでその具体的な方法については、実際家の研究と創意によって、今後ますます向上されなければならないと思います。すなわち、実体を通じて、いろいろの問題を見出しながら、研究的に日々の保育を進めている態度を、教師自身が身につけていくとともに、その日その日の実践記録をのこし、そ

れを保育向上の資料にしていくことが何より大切ではないでしょうか。計画をよりよいものとするためにも、また、実際指導を向上させていくためにも、この実践記録を重要視してきました。

● 実践記録について

以上の考えから種々の問題を解決しながら、よりよいカリキュラムの運営をはかるために、私どもは毎日毎日の幼児の生活の実態を把握し、次の指導の参考とするための実践記録をのこしてきました。

今日は、こういう目標のもとに、このような計画をたてて、おこなってみたが、実際の幼児の活動は、どう展開されたか、遊びのグループは、どんな状態であったか、問題をもつ子どもの動きは、どうであったか、さらに指導上、気づいた点などを、そのつど記録にのこしていきました。次に具体的な方法について説明しましょう。

1 毎日の記録を、どのように残してきたか

① 保育中のメモ

保育中に、くわしい記録をとることは、困難ですが、その中心的活動について何人位のグループが参加していたか、そのグループはだれとだれかということ、メモ的にカードに記録することは、ある程度可能でした。これらのことを保育後に思い出すとしても、なかなか正確につかむことができないので、このメモは非常に大切な参考資料となりました。また、メモのとるかたとしては、自由活動の時にちょっとした時間をみて書き

メモの一例

MEMO

(1.30)
(ねらい) (紙芝居つくりを通しての協力と豊かな表現力)

紙芝居あそび	A 27人	B 10人	C 5人
” つくり	A 35人	B 7人	C 0
協力的グループ	4人(たつお、ひろし、けん、しげあき)		
	3人(きよこ、えつこ、みのこ)		
	2人(あつこ、きくえ)		
表現力	A ()	B ()	C ()

以下省略する。

(注) いずれも、形式については、各自、自由の形式をとっているのですが、表としてのものはないが、研究的にいろいろの記入方法をおこなってきたわけである。

② 保育後に一日の記録をまとめる
 入れたり皆で話し合いながらそれとなく書くようにしました。

これらのメモを資料にしなから、次に一日の活動状態の経過を、記録にのこしてきました。ここでは、導入期の状態や、中心活動の状態、そこに現われる個々のうごき、問題などを思い浮かべながら、指導の反省とともに、書くようにしました。

(注) いずれもメモの形式については、各自、自由の形をとっていますので、園としてのものではありませんが研究的にいろいろ

の記入方法をおこなってきたわけです。

2 記録の整理および考察

次に毎日の記録を蓄積して、一つの経験の指導経過の記録をのこすようにしました。

以上のようにして残した毎日の記録を蓄積して、一つの経験活動が終わった後に、それらをまとめて、一枚のカルテのような形式にのこしました。別表「お店ごっこ」を参照ください。

3 記録の説明

① 計画の部分

経験、経験設定の理由、目標、予想される活動、留意点までを計画の部分として記録に残しました。なお、予想される活動には、準備も含めて記入した方が、後になって、この活動にどんな材料を使ったかがよくわかるので実際的ではないかということも考えられました。

② 実際の部分

◎活動について

一月の記録だけでも沢山あるのに、何日かをまとめて、その活動状態がわかるように、一枚の紙に記入することは、非常に困難な仕事でした。

くわしすぎれば、あとになって読みかえす気もおこらないし、簡単すぎたはその様子もはっきり浮んできません。そこで中ようをとることにし、後の参考になると思われることだけを、簡条書き的に記入するという結論に達しましたが、今もって適切

なあらわし方がつかめない状態です。

◎経験外の活動について

実際活動の記録で、問題になったのは経験外の活動をどうするかということでした。別に一項目を設けて記入することも考えられましたが、経験外といっても、実際活動の中でおこなわれているわけですから一緒にふくめてしまう方が実際的ではないか、別にとり出すのは望ましくないという意見に落ちつきませんでした。しかし、後の参考になるために、記号をつけて記入するようにしました。

◎記号について

◎印は……派生的におこった活動で非常によく発展し、有意義であったもの。

・印は……経験活動として流れに従って現われてきたもの。
△印は……ぶらんこ、鬼ごっこ、ジャングル遊びのように、いつもくりかえし、行われる活動。

◎この間に派生した興味と、次の経験への予測について

この記録を見ることによって、次の経験へのつながりがわかるようにしておく必要があります。したがって、次の経験に「ゆうびんごっこ」が考えられていたとしても子どもたちがそれに対する興味を何らしめさなかったとすれば、無理に「ゆうびんごっこ」をとりあげる必要はなく、むしろその時興味をもち始めた「戸外遊び」とした方が実態にそくしていると考えるので、そうしたことをこのらんに記録して、経験と経験のつながりを、持たせるわけです。

◎評価について

ここでは、目標がどの程度達成されたか、特殊な幼児の状態は、どうであったか、また、この経験をとりあげたことが、良かったか、わるかったか、という総合評価および評価の反省も含めて、簡単に記入するようにしました。そして記録の中でも評価をことに重要視することにより、実際の向上に役立てました。

4

記録の活用について

前にもお話ししたように、私どもは、実践記録をとることによって、実際を、再認識することができたほか、この記録が次の指導に役立つ重要な資料となったことはいうまでもありません。

経験から、経験へと自然に流れていくような配慮も、この記録から考えられますし、ことに評価を何よりの参考資料とし、これを見ては次の計画を立てる手がかりともすることができました。もっと具体的に述べますと、同じ「お店ごっこ」の経験をとりあげたとしても、幼児の年齢や、組の状態、教師の心ぐみなどによって、展開の内容もちがってきますし、それにとりまう評価もそれぞれに現われてくるわけです。

次の年に同じ経験「お店ごっこ」を取り上げようとするときに、この記録が、有益な資料となりました。

その通りにするというのではなく、成功した点や、失敗した点などを、記録によって学ぶことができました。

この意味から実践記録は、他の教師の参考資料としても、生かされました。

価	目 標
<p>◎グループによる製作から協力的態度を養うことはなかなか、むずかしいと思つた。子どもたちのグループはその目によつてもかわるものであり、また協力のしかたもリーダーによつてずい分違うので、良いリーダーの組（本屋、ほん屋、玩具屋）は非常にたのしく協力的であるが、多くは二、三人でまとまっていたようである。</p> <p>◎材料の工夫については効果があがつたように思われる。常に創意工夫するもの十八名、この経験から創造的になつたもの十五名で組の三分の二はそれぞれについて創造性がのびてきた。</p>	<p>◎種々の店を知らせ暮の街に関心を向けさせる。</p> <p>◎継続的な作業をたのしませ、終りまでやりとげる態度を養う。</p> <p>◎グループによる製作を楽しませ協力的な態度を助長する</p> <p>◎材料を工夫し創作するように仕向ける。</p> <p>◎うりかい遊びを通して社会経験をさせる。</p>

◎記録を生かして次の計画を考慮した一例
三十年十二月に行なつた「お店ごっこ」の評価から「継続的作業としてのお店ごっこ」の、もち方が反省させられましたので、その一例をあげますと次のようであります。
昭和三十一年十二月にとりあげた「お店ごっこ」の目標と評価をごらん下さい。

評価の◎印の箇所が、大きな反省事項としてとりあげられました。すなわち、

◎長期にわたるグループ製作が、幼児の場合むずかしいのではないか、形の上では、やっていたとしても、本当に協力的でない場合が見られるし、グループも始終かわるので、グループ毎にお店をつくるということも適していなかつたように思われる。

◎ある期間、製作をつづけて最後にうりかいをするという、お店ごっこのもちかたは、幼児の生活にびつたりしていなかつた。

以上の反省から三十一年度にとりあげるお店ごっこを考慮しました。

このように、記録を重要視したことが、保育の実際を向上させるのに役立ったという尊い体験を得て、私どもは、ますますこの実践記録の必要性を痛感したのであります。

記録が記録に終ることなく、実際に生かされる記録であるようにつとめながら、努力してまいりました。

評

○継続的な作業を、終りまで興味深くさせるのに苦心した。途中で必ず興味がうすらぐので場面の展開を工夫しては予定より売り買い遊びを早めたことが、かえって良かったと思われる。

○仕事に熱中した時程、片付けが忘れられるので、片付けの習慣がみだれたようである。

○お店の品物を作ればすぐにでも売買して遊ぶのだと考えている子どもたちなので、これがある期間作ることに費してその後一度に売り出すことについては、少考えさせられた。売買には非常に興味をもったが一度にその意欲が発散するため雑然としたきらいがある

○この経験をしたことにより製作意欲が高まり、創造性が伸びた子どもも多い。とくに社会性の乏しい子どもは製作によつて自信を得たことにより少し明るくなつたように思われる。

○お店に対しての関心が深まり、クリスマス近しい街の様子から、サンタクロースの物語り遊びも盛んに行われて来たので、次の「子ども会」の経験にも自然に入ることが予想される。

31 年 12 月「お店ごっこ」

評 価	目 標
<p>・製作物の評価</p> <p>進んで作りだす（十四人）。ちょっと誘えば作り出す（二十五人）。気がむくと作る（五人）。表現内容のよしあしも大体これに正比例していた。</p> <p>・製作物はできるだけ幼児の創意を生かすように、また遊びを通して、創造性をのばすようにも努力して来たが、幼児の方が、はるかに創造的で、応用性もあり、教えられることが多かった。</p> <p>○去年はグループ製作を通して協力するようにもつていったが、今年、製作したものを遊びに活用させながら、遊びを通しての協力を目標として展開させてみた。結果としては、今年の方が実体にそくしていたと思われる。</p> <p>○作つたそばから始終うりかい遊びをさせていたので、自然にうりかいの態度も身につき、最後の大売出しも、おちついて、行われた点は成功だった。</p> <p>・製作材料が豊富にあることは望ましいが、やはり限度があるので、不十分な点もあった。</p>	<p>○お店づくりの製作を通して創作的態度を助長しその表現力をのばすとともに、作つたものを遊びに活用させることにより遊びを通しての創作性をやしなう。</p> <p>・うりかい遊びやそれにとまなう他の遊びを通して、協力的な態度を助長する。</p> <p>・うりかいの生活経験をえさせる。</p>

改正後の経験と目標

経験

経験に対する目標

なつやすみがすんで

1. 幼稚園生活に再び順応させ、規律正しい生活態度を身につけさせる。
2. 自主的に友だちあそびができるように仕向ける。
3. 夏休みの経験を言語、絵画、リズムに活発に表現させながら、これらの生活態度を身につけさせる。また音楽をよるこんで聞いたり、奏したりするようにする。(二年年長)
4. 遊びを通して二、三人以上が遊べるように仕向ける。(年少組は除く)
5. 人に迷惑をかけないように気をつけさせることにより、社会生活態度を養う。

どうぶつえん

1. いろいろの動物に興味をもたせ、動物には種類のあることを知らせる。
2. 動物を絵画製作、音楽リズム、お話、劇あそび、などに自由に表現させることにより、表現能力をやしなう。
3. 動物園の共同製作、および動物園の公開により、協力的態度を養い交友関係を深める。(年少者を除く)
4. 自由な表現を楽しみ、友だちと共に作ることのよろこびを味わう。(月刊カリキュラムより)
5. 紙芝居や幻灯を見たり、劇や、お話あそびを通して、創造的な言語発表へ導く。

うんどうかい

1. いろいろの競技のきまりを理解させ。協力的に参加する態度をやしなう。
2. 全体とする体操やリズム遊びも、たのしくリズムカルにできるように導く。
3. 落ち着いた話を聞いたり、製作する態度を養う。
4. 力いっぱい元気で活動するようにする。(学芸大より)

えんそくのりもの

1. 園外保育を通して自然に親しませ、健康の増進をはかる。
2. いもほりをしたことから、秋のみのりを知らせる。
3. いろいろな乗り物に関心をもたせる。
4. 人に迷惑をかけないように気をつけさせ、協力的な生活態度を身につけさせる。
5. いろいろな遊びから、働く人に対する感謝の念をやしなう。

が達成されたもの A_y = 未だ達成されないもの

第 2 表

昭和 30 年度目標の検討

月	改正前の経験と目標		実施後の適否				
	経験	経験に対する目標	A組	B組	C組	D組	適否
9月	なつやすみがすんで	幼稚園生活に再び順応させ、規律正しい生活態度を身につけさせる。	A _x	A	A _y	B	○
		自主的に友だちあそびができるように仕向ける。	A _y	A	A _y	A	○
		夏休みの経験を、言語、絵画、リズムに活発に表現させながら、これらの生活態度を身につけさせる。	A _x	A	A	B	○
	おうちごっこ	おうちごっこのあそびを通して二、三人以上が協力して遊べるように仕向ける。	A _y	A	A	C	○
		人に迷惑をかけないように気をつけさせることにより、社会生活態度を養う。	A _y	A	A _y	B	○
		秋の自然にふれさせ科学的な興味を助長する。	A _y	B	A	A _y	○
		紙芝居や幻灯を見たり劇やお話をさせ、あそびなどを通して創造的な言語発表へ導く。	9-3 A _y	9-3 B	9-3 A _y	むり B	
10月	どうぶつえん	(園外保育を通して自然に親しませ健康の増進をはかる) いろいろの動物に興味をもたせ動物には種類のあることをしらせる。	A _x	A	A	A _x	○
		動物を絵画製作、音楽、リズム、お話、劇あそびなど自由に表現させることにより、表現能力を養う。	A _y	B	B	A _y	○
		動物園の共同製作および動物園の公開により、協力的態度を養い、交友関係をひろめる。	10-3 A _y	10-3 A _y	10-3 A _y	C	○
	うんどうかい	いろいろの行動が機敏にできるように。					
		走る、とぶ、投げる等の運動を通して身体の発達を図る。	年間 B _y	年間 A	年間 A	A _y	
		いろいろの競技のきまりを理解させ協力的に参加する態度をやしなう。	10月 A _y	10月 A	10月 A	B	○
		全体でする体操やリズム遊びも楽しくリズムカルにできるように導く。	10月 A	10月 A _y	10月 A	10月 A _y	○
	落ち着いて話を聞いたり、製作する態度を養う。	10月 A _y	10月 A _y	10月 A _y	10月 B	○	
備考	A=適当なもの B=時期を考慮するもの C=不適當なもの A _x =目標						

第3表 保育実施の経過

経 験	お 店 と つ づ 一 期 間	12月1日〜12月14日	小 松 組	(一) 年 保 育
選 沢 の 理 由	この頃になるとクリスマスセール、暮の町など何となく落着きがない状態になる。子どもたちも巻き込まれるこうした雰囲気 の早く回ってくるこの地域にあって、子どもたちの遊びも前経験中の八百屋さんごっこに時計屋おもちゃ屋など出てくる程お 店ごっこに興味を示しているので、これを取りあげ共通な興味からグループで協同的な遊びをし、自主的な欲望のもとにいろ いろな品物にも関心をもち、作って遊ばせることによつて創作性をより高め独創性をもたせたいと思ひこれをとりあげた。			
目 標	○よろこんで自分から進んで創作するように。 ○創造的な製作をする。 ○8人位のグループで話しあい、一つの目的のもとに創作し行動できるよ様に。			
展 開 の 概 略	おもちゃ屋を重点として発展させるつもりであつたところ、テレビ、下駄、帽子、などがつくられ、子どもたちがそれぞれ思 ひ思いのものを作つたためお店には品物がたくさんあり、ごっこ遊びをするのに一人では沢山の品物ができないことが話し 部屋の中、五つのグループができて帽子屋、本屋などそれぞれ自分たちでできめられたお店屋の品物をつくり、用意ができた。一日、 部屋の好きな所にお店を作り品物を並べてお互い(グループ)買ひに行つたり売つたりして遊んだ。			
展 開 の 概 略	画用紙、のりなど教材が一時切れていたところからワラ半紙で絵本をつくり、新聞紙で帽子を折れると折方を教えてあげた(一 人の子どもに話しながら折つてかぶせて見た)ところからこれに興味に移り、一日にして大部分できた。お店ごっこという ところから「銀行屋さん」になるとお金つくりが始まり一方はテレビを作りたいので以前に作つて遊んだ虫籠を出しセロハンをど 灯をつくり、たまたま節の紙を持って来たところから盛に節が作られていたので以前に作つて遊んだ虫籠を出しセロハンをど つてわたしたところ袋にこれをつめたり、うすい箱に入れて箱詰ができた。以前に作つて遊んだ虫籠を出しセロハンをど 虫めがね下駄などを作つていた。その日全員集まりいろいろできた品物について話し合つた折、立体的に自分で考えついた品 物を誰の助けもかりずに作つた子どもをほめたところから独自の創作がされるようになり製作に対する意欲が旺盛になつた。 ところがあまりばらばらな感があつたので、全員で話し合いをする。これによつてお互いのお店屋さんがますますグルーブ毎に必 要な品物をつくりをした。進んで品物つくりが行なわれたが、作ることの興味が失せ、ごっこ遊びに興味に向いてしまつたところ で銀行のグルーブからお金をわけてもらひ、かばんを描き、積木、机を組立て、ごっこ遊びをした後、品物を家に持ち帰つた。			
展 開 の 概 略	グルーブで話し合いをし、その目的にそつて行動がとれるようになり、喜んで製作し工夫して、作る喜びをもたせることに努め た。作られる玩具は子どもたちの身に直接ぶつつかつてできるものを、また子どもたちにも遊ばせるようにした。紙を粗末で扱 べるものになるようにと思ひながの身に直接ぶつつかつてできるものを、また子どもたちにも遊ばせるようにした。紙を粗末で扱 つかわぬように、新しい紙でなく利用できるものを見つけた、そこから何かを作るように考えようになつた。個々の活動をよ つ注意し子どもたちの努力を見落さないように努め、それを認めて誉め、さらにそれから何かをもつと何か工夫して作らうという意欲をも つようにし、またそれを見せ、話ししてあげながら作りたくも気がつかない子どもも目を広めるのに役立つようにした。			
留 意 点	グルーブで話し合いをし、その目的にそつて行動がとれるようになり、喜んで製作し工夫して、作る喜びをもたせることに努め た。作られる玩具は子どもたちの身に直接ぶつつかつてできるものを、また子どもたちにも遊ばせるようにした。紙を粗末で扱 べるものになるようにと思ひながの身に直接ぶつつかつてできるものを、また子どもたちにも遊ばせるようにした。紙を粗末で扱 つかわぬように、新しい紙でなく利用できるものを見つけた、そこから何かを作るように考えようになつた。個々の活動をよ つ注意し子どもたちの努力を見落さないように努め、それを認めて誉め、さらにそれから何かをもつと何か工夫して作らうという意欲をも つようにし、またそれを見せ、話ししてあげながら作りたくも気がつかない子どもも目を広めるのに役立つようにした。			
評 価	グルーブ活動は思いの外まつまつて、話などしたが、もう自分はこのお店屋になるという考えからぬけない程であつた。 きによつて製作させたいと思ひ、後になつて話などしたが、もう自分はこのお店屋になるという考えからぬけない程であつた。 このグルーブを先に作つてしまつたことか、何か網を投げて活動する面では失敗によつたと思ひ、子どもたちの本當の創造性を 養う面からはどうであつたらうか、何か網を投げて活動する面では失敗によつたと思ひ、子どもたちの本當の創造性を 験を通して子どもたちは本當にどんな子どもも独創性をもち、すばらしい創作力を持つていたことをしみじみと感じた。 からである。それは子どもたちの興味にびつたりして、あの子どもの自由な創作力を持つていたことをしみじみと感じた。 作る玩具をつくり、それは子どもたちの興味にびつたりして、あの子どもの自由な創作力を持つていたことをしみじみと感じた。 と作らせたと思ひ、同じものを作つてといつても決して作らない、一人の子どもの作るテレビ、写真機、幻灯、皆その都度			

第1表 経験(単元)比較表

月別	参考 経験	保育ノート	東京都幼稚園	月刊カリキュラム	学芸大学	四谷幼稚園
4月	新しい友だちと先生 親たちの友だちと先生	楽しい友だちと先生	楽しい友だちと先生	集団生活の楽しさ	新しい友だち	たのしいようちえん
5月	子どもの成長と母親	お元気がな	子どもだどちも	楽しい規律	楽しい集団生活	お元気がな
6月	自然とまじわり	時夏を	迎える	丈夫なからだ	雨ふり	お晴雨 七夕をかざりましょう
7月	夏のあそびと休息	夏のあそび	遊び	夏を楽しく	うれしい夏	七夕をかざりましょう
8月	夏のアそびと休息					
9月	あらし・花・虫・月など	楽しかった夏	自然	友だちと一緒に	運動会	夏休み お楽しみ お楽しみ
10月		運動会	会	協力する子ども	動物あそび	動物あそび
11月	みのりの秋	いきものをか	のりものあそび	豊かな心	のりものあそび	のりものあそび
12月	社会と子ども	年の暮とお正月の	支度	子どもと社会	楽しい子ども	楽しい子ども
1月	成長と自覚・共同あそび	楽しいお正月	月	創造する子ども	冬のあそび	冬のあそび
2月		おみせやさん	さん	しっかりした心	冬のあそび	冬のあそび
3月		おみせやさん	さん	成長をよるこぶ	冬のあそび	冬のあそび